湖月抄

よしみね

蓬生

并一 細 巻名詞并に歌ばかりをぬきいでゝ詞は

なるべしとぞ云る詞ばかりを歌はみな

孟 詞ばかりえわかるせるまぢき蓬の事なるにちん作る

とあり。よりごとにはいとれぬよ侍てうとぞあるとい

奇よい弱わてまるれそといめ道をるくふるこ蓬乃

ちの名をとゝわり師巻よ蓬字七あり。郷も蓬

生もつくさうかみし生れ字八付字也。やうに字を付

てゝるり式物語のるくひゝ。義蓬 義海檜のごひ也

細 歌名よいえわかるせるふまぢきうもぞふの事乃さに

ちんとあり。蓬通の事也。但蓬の事乃さとあるゝ云ゝ

蓬生とゝ事 河 杜詩云蓬生非妄根云云 拾遺 いそ

く弱ちうん蓬生の人をとうよりぬるぞやどの通。并れ

事 細 横の并也。洽標（ミラブシ）のさ沉乃るもあり。源氏九七巻云

事八講（みそぢくしの巻よりはじまる）

（みそぢくしの巻の中ばとし）元八才の四月仏法と因果とをつくわ
まをまことに結合の未まてのことあり。未八歳よりなるべし。悲哀
常陸介の始終とをあるべし。花（源氏廿七八才のうみたり）
さりなるべし蓬生の君の始終とをいとなりてどう
めい源氏の源氏へうつりうつりて源氏の事とをいとこと
ばりつつ源氏なりめのうへ三条の東乃院ようつりうつる事
とのせつりうれて相続の恨ん出をへうつるべし事ニ八ま
さしく蓬生の宿とをるうみてわあるひるる源氏廿八才の四
月乃ろ八見をいとく横の并みとわるべし師細雪横豊の
并也とのまつり花宴ニよ八横の海とこと

りわうれつて（細）行平の中
とをいて源氏の流下の乃迂の
けのうをとをへ廿六年乃
事ちり出り河古行平氏
ちちりとをへ源
の流ようれてをふ
とうをへよ孟日
さそも秋乃のちり前
（細）そろぐのはいへ人をとをへ
孟ちで好乃のうへづりに
てをのをどころあるへ
八源氏はうつりのうづりを
一をとびよりびのちへ源バ
ちりをとのをとろへをうち
いをぬぐよりぬぐ孟乃ちへ
二条のうへ孟　孟乃も源
ちりと彩をとうへ今れ
と心徒自由ちれ心へ源
廿八表伝ちり。別院ぬを
うりのはをそひも
（源の陰名ハ中なる）
（紫上ニ）
（出年イ）
（紫上ニ）
（源の陰名ハ中なる）
（わかくさ巻ハ中なる）
（男）

八りわうれつて日びをひ一はをひ乃ちり
ををぬぐ一ちぬぐ人ぬをうり一ををて
を秋乃のちりぬあるはひとをこの巻ひ
をそうをりをげるうり一ウ二条のうへ乃をを
のどやうあて一びのはをこを紙をぬぐつ
ちりへびぬ学をうをひ川ぐ伝ををうり
をるうりのはをそひををふけのこれよ
のうをあり一を時ぐよつけてあつひをて
結よるぐをあ結をんちるうくをあのうどをを
人ちを一をちへれど立利ちひ一程の院ちを
程ををを一のをとよをひやり結人をの
をれぬ男へ
ちをのうちうどを結一ぐひをぬりり。ひ

（細）只は世のう

きよしといひんとて竹のしをそこうろ弁へ面白し古今序ぶりれ本の人ぶれぬことをり
てゐるこゝろ柳と花名後ゆ中ぶ候ハ遠時岩上とゆる也盃今うに伊ゆひ物んん
竹のふれるさゆ一ゆうさせといふ〜ちや 細 引ゆよそうぶうら
ゆうくゆゆゆと 細 保の西ゆ人ゆの之世 師 保のゆひゆのゆどよゆぞゆて人のもゆゆうゆも
わゆゆぬゆゆり
ゆうゆれゆひゆ程の 紙の上ゆどのすゆの列の歌ゆを〜ゆに〜ひやりしゆゆのゆゆ
ゆゆゆの之 細 光ゆり素揚
のゆゆせゆつひの是ゆよみ
ゆり弁上の何ゆゆハ未
揚のゆをいゆん〜 光ゆ
人ゆのゆをゆり
いゆゆ光ゆいゆゆ
血いゆゆゆゆゆゆを
を生の方よいゆゆ光
ゆよゆひゆゆ
ゆゆの是の之と 細 本後
よゆゆゆ唯保の氏方よ
ゆいゆゆゆゆ信方ゆ
ゆゆけ後ゆとのハ氏と
保ゆゆゆゆゆ海ゆ
後ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆいのゆよゆゆゆ
ゆゆのハゆゆゆハ一之
いゆゆ 明 本後ゆゆ

ゆゆ之ゆ
ゆゆ
ゆゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
細河光[illegible]と
[illegible]法師と
[illegible]
法師の中より[illegible]
乗盃日
[illegible]
細掃除をせんもせんもし
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ざう柳しゅが袋ハつれどもさ
めてぐこうづつぞ古物れ毎

わぐとこのまーめーねと
細 袋とこのまーさまてて
いるけ毎どど毎みつるの
おうく
ぢうぐーんたう 細 女どう
の文くよう絵ーまくざう
のるまともまうくめるす
のうーどと文文の数御毎
しーまくよ絶隠くく人よ
もうくくまくくしては
ますく天絵上蔦しれさ
海く暁 男方の文のるに
ハ形ど女どうれ書伝を
もつまーくく絵く

さ古寄みうこ拾ぐうるぐやうのをさひご
しみくくこそつれぐとまぐうつぐ
るすまねをもるぐさむうるさるめれ
さやうのくとみをうろどくくりの絵
わぐとこのまーうねどとのびくまさ
隠よのこあこ
いくぐくこるさほどいはるぐうるたう
みくようるぐまうーてくわくさ
人ハ未まよつけてをんぐさ絵んまべ
くれどもやのりてうづさ絵ーはんどさ
てのまくよ世中をつまーはよ拾りて
まれみをとかしひまぐされわうとを
くくよるれ絵つどみうめくさうくり

ハくりりくくこやのくぐ
河唐寺藤姑射刀自藝奥
姫の事もみくさくりのくう
の名く 細 伝事も古拾絵れ
こくぐどハ今も内伝不年
又拾書の事よりてふ女
とぐ方自くくを女の趣みめ
あー
うくくこても 細 古寄事
袋年ぐづうハ面ゆくう
をわうぢ拾くくを拾の撰
集るどくをスハをまう
ぐくくや
人やぐく 河 紙袋法陸奥紙
奥列うう 檀紙をもさぐ
くくくく檀くまゆくこのまく
万袋よハくうのくれまゆくこの
紙とまうう武蔵河しい花
平神の中と南へぐれう
川くく仁和寺川くも号もを
ハ不くて紙をもれ拾ぐう
今の世れ人のもう絵ーうくく
暁ハ神上蔦くハ
をくまぐとうくを 細 花蘭九

あけてぐくくりりくくやのくぐ
めの拾絵のをようくくくくくぐぐの
河艶 まくぐうくりのまー絵ふうくくくくくもかし
くくくよえういぐ絵ゆくも絵ぐくくまう
うくくくくく

大臣有仁公ニハ孫教をとり
ものまなび給ふ 法師にて経陀羅尼の教をとり給しとき
うちひまなりし 秋院
伊勢の君よりもまさり
秋院ハ 細 此秋院推しも
ものの師 事柄 歌 ハ秋院よりまさりたる
えらばれ
ぞうやうのかの方 細 姫よ
大納の書と 変生の恋れ母
方のとばく 系図のあり
うちさわぐ どたもひけ
よたうぬ 細 ありなれぬ
ゆく 枕草子ゆきかふ
れど 変生の恋ハ通し給
ずして 物 女房 女房の方の恋
よりも 女房なりあれど
下よりぬ あのやうよ
くんをくて 物語ゆき
うちあり 花 此 此
あれとハ ゆきめて
細 此姫恋のとのうち
物語とハ 女房の書よ

細先と事長文の物語をそう皆上鶴岳さ
ようつくそりの 結 物語ゆ
しれめのと ごのうちそどーごろあぐれ
ぬるのかくうふうひつれどうしひ
つ 秋院うを結ぶ ていとうへ
ぬ この姫君の母かの方のう
ふ 物語ゆ ふれくそ 紙の方よめ
まるあうう むすめ ぬ
さわうへ ぬ
物語ゆ
やを をまう
うふ この姫君いくへ
むう とひうひ 結ぶ
ゆうめ ぶ

うなどうつくゆめ
結ぶ
うちなりのうちうちうちう
のかうくの人ゆくうち
人のまなよ
細 ものよ地 変世るに
うびあうと 物語よ
て事柄のとのの
世 えまつしのとの
とのうんうて変せるあう
うくのあう人のうと
り 幸性ふうう
書ものハゆく思ぐう
上 鶴 き事とぬ
びゆもうう
みやんうれ
人るれどもゆうれめ
宮世ゆ 変物ものの書を
めて ものとうをうくゆと
へ事柄のとれうとう
うまで 細 此事柄のとハ
天 ゆうにゆうれて
つうやうみのあよめて
べき宮世のうう人ゆく

ゆびひめ君のはさ海のふうげなるも
うひ笑 変物の宮物語ひさうをひ
うう紫 変物の宮物語ひさうをひ
ひ笑 変物の宮物語ひさうをひ
の人ゆくうひとのまようろをつく
うひ ゆうとゆうじうなうす
ぢみうう ゆうまで ゆりぐうくせあ
ゆれいめ ゆううをうくうされを
ぢめ ありゆう 変物の方のう ゆうのう海
めくあれづうくゆをうれうう
をいうぢうかううのをうよこの
ぢひをめどうのつうひんようてう郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もゝせのうこ河のうれ鮫
よせん 孟世のうき河八みを
ぬ山へも入こさぐつくしへ
ゆゝ向あれうのうを
ひげようゝよたる
孟子一八屈こゝの方のひゝう
よなりうえと女房京の
ゝ

ゝうりかよ
ゝひもうゝひ絡紫へゝを
ゝて市場と絡よみなり
をてんとゝゝうゝを
いぎうひゝをゆゝし
ゝなりりとゝん
くゝゝうゝをゝ姉君とゝ
ゝゝて絡紫へゆゝんゝゝ
ゝゝゝ

中ゝどいむつゝをゝとゝゆゝゝやゝゝめゝど
孟一向ゝゝ 悪ゝ
ひゝうゝよゝんゝゝゝゝけよゝいゝもゝをてゝゝゝゝ
をしゝどゝるゝどいゝをゝゝゝゝうゝゝへゝどゝむゝげよゝゝ
ゝゝうゝゝゝゝ

もいろくあるべし
ほがらけの人のえをりゆ
るすべきなもあり
ゐ方の人のえをりをべき
みもあり源氏の
性のをぐれるようて
うろんどもをして表と
ほがらけるべし
あの辰よりの古院のけれうの
細漂零の是よりて八篠
なり。同行なるべし十月
外のるもし源の北七家之
うのどんじのうみ
細ひうらの系れはるみ乃
あぐりなりおれ祖師
若も世後をるれう
とさ海前りみうち
はりよ意ぐるなる
ちうく惟之網云
物是より源ての篠
のありさ海を祖師の
うりあるべし

とうふけてなめるべしは
のうをりゆるもべきみよあるべし
しうけはなしじいとあしうのいひさぐ
きやうりをよりゆくまにいとぐ
細ひうりうん寄もるうう
うむうりくうるげよるすぐめすぐ
しをのうみれめは古院のけるあよは八
篠世界はゆをりてしをこうそうやぐ
はるべてのはめるべざうんをぐれをこるひ
よしうこうこうこう限をえうこうをれば
このどんじの志も系りのるうりうり
海よしうこうこうこ

ふ車よのり
師まづ三径ハいつまでもあるべかりけるを三径ハいつまでもあるべかりけるを
ちりうるるさまみくるるハ
ちりハれよ　細　大義の書の見
礼記内則適子庶子被車
宗子宗婦雖貴富不敢以
貴置人宗子之家雖衆車
徒舍於外以寡約入不
敢以貴富加於父兄宗
族
をのこどもなどをけて　細　大義
のふ方のものもれども　師
どりのゆるるまとをえ
ふかり
いづれこのえびに常みもの
るるべるべいろ法あるるる
のこらと　細　いろる鳥
嘉みも　大三径　とあるべ
よハ　大三径　とよるこ
河　蔣詡字元卿舍中竹下
開三径　文選曰三径就荒
陶淵明　三径ハ門よりゆくこと井
へゆくこと厠よりゆくこと

ひびねとさそ　綾堂へうへぐんのうそく
ぐき裝束あ　主婦のりを
きれこうぐ　調
つて　大義の方ハ
なげるる　盃
しこと　盃
みを
くあけさ
しあけ
れ

師
ちるの荒て御ものこと家みもるるべあるなるる三径ハいつまでもあるべかりけるを
重ねりての　細　大義の書るどハ門かをぐこてて下車まづさとるるこに車をとのりひる
どすりハすぬ人もなるされ　大ハ家のあれるるる海のあるづるるさゆ人なるづ一んをつあくるる臣
師前くこりまを持の大義中方を義引るるこよ　主婦のるれハいとくぐてこるるくあるるこ
るるるるべ比いるるるつるるれど　細　大義の書の見
細　大義の書るるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
細[illegible]孟式アリ　孟式アリとある
本ニ之紅葉心ヒ女ヨ式ア
リよハ[illegible]

[illegible]　雅　ハラトヨム
リラニハ非ス　細孟日
[illegible]
細[illegible]孟の真女ヒヒ別
て[illegible]孟真
実の真女ヒて偏ヨ雅て
[illegible]ヒて[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

九尺よりうち 細 九尺あまりうちうちに侍ひ者はうぬのよけ九尺くだれば九尺よりうちに 所 主殿 所 主殿 所 主殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟東
しひさいづれば
ぐつりこのこそれそう
ぐつりこのこそれそう
ぐつりこのこそれそう

風よつきて　細　引奇よ及
だ子　何人をかき者ろ
白る歌花風よそて
かびくづるれ
世をもろとかきころり
ろびこの中ろり歌のさ
ぶろるるしびろ者ふ
さ海かり
ろちびるろいろろて
細花ろ里とふぐて
ろのふ歌よ歌の花ろ
梅とかりいぐろ　明花云
梅るろねじ又かりとと
武付花歌里人忠ふろる
まてもかるかく

ひぐでゆのしまて　悪びく白いのろ人　紫ろ　はいを
海さてろていぐ結日ぐろふりつる名ろ乃
わめてろ　悪ありさしろひけのるく
かろり　悪ひけのはありさ地ぐ　あれく
えんかろ月ぐろ月さて地ろぐろ月さて
ろ月のろ　お常陸の方ろ　細　ろろ　ろろ　ろ
あれろ家のぐでろ　細ひけのるる　ろ　ろ
ろとそぐ結地月さろ　春　ろ
て月ぐ　るびさろ風よつきてさて月
ふぐかろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
ろ花みけろて地ろれいさて
ま人ろよ柳をひろろぐて　細　ぐいひぐを

さ出ろ人ろよ　松車の物
又ろり保のさ出て保
ろ
ろろろろの文かりろ
又ろかろ未立ろれ
と地かろくかてひろ
のろくろ地ぐとろ

ろ花ひろりて　細　保の用
さて月地ひ結みろふ人
あろの中ひ師ひかろ
ろく保よとて結保の
表ひのろとりせろ
いろろめまろろそ
ひぐかろしるぐろの
ろろて月ぐ前よひ
とりけてぐろ
ひろねの表よ　細　文文のみて
ま人ろに結ろ保氏の国来
八強よ陽表ろ人ひ師ろり

ろねぐとぐれかろろ　細　ひろの表
ろろぐろ地ぐとはぐろ
ろろいとろ表めて
れろ結ぐ
ぐろろ保氏結文を　細　保の用
ろろいろめろて　細　保の用
の文ぐろ　細　結文ア用
しひはぐ　赤橋の
ろ代ひぐやなぐ
よろてきてろ
助ま人ぐを
細ひろの文の中
ろはいぐ
とゆろよ　赤橋の　文の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細惟光の母

[illegible]

細惟光の母

[illegible]

細惟光の母

[illegible]

細惟光の母

[illegible]

細惟光の母

[illegible]

細惟光の母

[illegible]

細惟光の母

[illegible]

細惟光の母

[illegible]

細惟光の母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細の弓ひやりとも
細原は文中に生長し給へ
あくまでもすなほなる人の思ひなる
どいふなりしと法師のく
つろひのくらぶるうの思ひ
も徒思ひなくまことに 曰孟

未草の紫も
孟子人安樂花竹亦和
平とて其人の術よりて
草木の文も能くうるを

もろはあり
こしなりこ
うの家よ
ちもろも
くる。
ひの行み
給よれば
撥くしく
未草の紫
るうれし
しばらも
やうなる

細原く
細原く
下 亦 司

くれ人の 細原のはれ
あるべきうりんよりれ給
しるるるせうく
ゆさしせばうり
曉ひ何して一夜年うち
るべし 仰 給ひ巻は秋空
年ひるへし 孟 草木の池
よ已故のすとつるぞる
のせうう何し
高の池 細 し女巻多しよ
あるう也ひ巻はひしうの
文の一期とうう。さ秋
秋末のうもうう
うの文歌のかのうく
細一位ふケ年みくのぎ
ゆうう。是も秋年とうう
等年のうう
みる。倒の秋末とうう
つし 仰 何みて二しせ
うり花を忘のうるみ
ゆ

原の未稿
孟子
細人々と概
細今ら嬉
嬉恭ごさのとのうし

くはへ
るうし
て。何
まこの
原よる
給こる
ト
ゆの
さうの
しげ
武の
給ぞ
そざり